



慶應義塾 三田移転150年

2021年、芝・新銭座にあった慶應義塾が三田に移転して150年を迎えた。
『広辞苑』の「三田」の項には「①東京都港区の一地区。芝公園の南西に当たり、慶應義塾大学がある。」
「②慶應義塾大学の通称。」とあり、今や「三田」は一名を超えて慶應義塾の代名詞として定着している。
今回は明治維新という転換期に挙行された慶應義塾「三田移転」の経緯を振り返る。

新銭座で近代私学として スタートした慶應義塾

1858（安政5）年、福澤諭吉が慶應義塾の元となる蘭学塾を開いたのは江戸の築地・鉄砲洲にあった中津藩奥平家中屋敷内だった。現在の東京都中央区明石町、聖路加国際病院の辺りと考えられている。当時は塾の規模も小さく、その後10年の間に芝・新銭座（現在の東京都港区浜松町付近）と築地・鉄砲洲を行き来する。

2度目に新銭座に移ったとき、世は維新改革の真っただ中で、慶應義塾も組織機構や教授法などを一新。近代私学の先駆けとして新たなスタートを切った。「慶應義塾」という塾名もこのときの元号から取られ、名

実ともに義塾の歴史の出発点と言えるだろう。

では、それがなぜ数年後に「三田」に移転することになったのだろうか？

三田の移転候補地は 眺望の良い島原藩邸

発端は1870（明治3）年に福澤が発疹チフスにかかったことにある。福澤は新銭座の地が「何か臭いように鼻に感じる。また事実湿地でもあるから、どこかに引き移りたい」（『福翁自伝』）と考えるようになった。

幸い病気は全快したが、当時は入塾希望者が増加しており新銭座の塾舎が手狭になっていたため、移転計画はその後も進められた。最終的に三田にある島原藩中屋敷を移転候補地に選定。当時は丘の上から海もよ



三田山上より東方芝浦を望む 明治40年頃

く見え、「高燥の地で海浜の眺望もよし」であったことも候補地となった理由の一つだった。

明治政府

の発足により、当時諸国の大名の江戸藩邸は一つを残してあとは政府に納めることになっていた。また、折しも東京府から福澤に対して従来の巡邏制度を西洋風の警察組織に改めるための諸外国制度の調査の依頼があった。そこで東京府にも働きかけるなど福澤自らが先頭に立って奔走し、同年11月、東京府から正式に島原藩上げ邸1万1856坪の借用の



慶應義塾発祥の地の碑



令書が下された。その後、土地は慶應義塾に払い下げられている。

移転は1871（明治4）年3月のことだった。

新銭座に比べ敷地は30倍、建物は5倍という広大さで、慶應義塾は当時最大規模の私塾となった。以来、ますます近代私学としての陣容を整備していくことになる。また、『学問のすゝめ』『文明論之概略』といった福澤の代表的な著作も

三田移転後に相次いで発表されている。亡くなるまでの約30年間、福澤は三田に住み続け、教育と著述活動を展開。慶應義塾Ⅱ「三田」は新しく生まれ変わる日本の知的中枢として脚光を浴びることになった。

三田移転の日を 開校記念日と定める

1909（明治42）年に慶應義塾の開校記念日（4月23日）が制定された。この日付は、一説には三田に移転した日を旧暦から現在使われている太陽暦に換算したものとされる。

ている。

同年5月に発行された『慶應義塾學報』を見ると「慶應義塾が芝新銭座より現今の三田2丁目に移転したるは、去る明治4年4月23日（旧暦にて3月23日）なれば、義塾にては本年より毎年此日を開校記念日として、休校の上、様々有益なる催しをなす事とし、同時に従来毎年9月に行ひし寄宿舎記念祭をも同日に行ふ事となせり」とある。また福澤が発行する『時事新報』（同年4月22日付）でも慶應義塾の開校記念日制定について報じ、その日に講演会、展覧会、園遊会が挙行されるとある。

このことより当時も、三田移転が慶應義塾にとって大きな飛躍に向けたマイルストーンであったと認識されていたことがうかがえる。

慶應義塾移転により 大きく変わった三田の街

三田に移転した明治初期は、三田台地の旧大名屋敷が、華族、政治家、富豪などの邸宅地に変わりゆく時期だった。三田は間近に海が見える眺望の開けた高台で、自然が豊富に残る、昼間でも森閑とした場所であっ

たと伝えられている。

慶應義塾移転後、元の三田1・2丁目（現三田2丁目）に学生を相手にした書店、飲食店、文房具店、洋服店などが次々とでき、学生街として発展していく。以降、三田通りに面した一帯は三田周辺で最もにぎやかな場所となった。

1903（明治36）年には近くに網町運動場を開設し、11月に日本の野球史上特筆すべき第1回早慶戦が開催された。翌年には三田通りに路面電車が開通。「慶應義塾前」停留所が設置され、路面電車は地域住民や塾生の足として親しまれた。

現在は三田通りを中心に高層オフィスビルが立ち並ぶ一方、慶應義塾の中部や女子高等学校、さらに外国公館や神社仏閣などが点在。慶應義塾とともに刻んだ150年の歲月の中で、三田の街並みも独特の趣を育んできたと言えるだろう。



三田通り（2021年）